

Sun Java™ System Directory Proxy Server リリースノート

バージョン 5.2 2005Q1

Part No. 819-1953

このリリースノートには、Sun Java System Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 のリリース時点で判明している重要な情報が含まれています。ここでは、新機能および拡張機能、既知の問題および制限、その他の技術情報などを記載します。

Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 への更新を予定している場合、またはすでに Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 を使用している場合は、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、次の Web サイトで参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys?l=ja>。Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 に更新する前に、この Web サイトを参照してください。また、その後も定期的に Web サイトを参照して、最新のリリースノートや製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートは、次の節で構成されています。

- [リリースノートの変更履歴](#)
- [Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 の概要](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題および制限](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [その他の情報](#)

このリリースノートで参照先として示しているサードパーティの URL で、追加情報や関連情報を得ることができます。

注 米国サンマイクロシステムズ社は、このリリースノートで示しているサードパーティの Web サイトを使用できるかどうかについては責任を負いません。また、これらの Web サイトまたはリソースで利用可能なコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料を保証したり、これらに対して責任を負ったりすることはありません。さらに、これらの Web サイトまたはリソース上で、またはこれらを通して利用可能なコンテンツ、商品、またはサービスにより生じた、またはこれらを使用または信用したことに関連する実際の、または申し立てられた損害や損失に対しても責任を負いません。

リリースノートの変更履歴

表 1 変更履歴

日付	変更点
2005年2月2日	商用リリース
2005年2月17日	表6のローカライズ版 Solaris パッチのバージョン番号の更新
2005年2月22日	表6から表9までのパッチバージョン番号の更新および Solaris 10 のサポートの追加

Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 の概要

Directory Proxy Server のマニュアルとコンソールには、製品のバージョン番号が 5.2 と表記されている部分があります。Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 は Directory Proxy Server 5.2 の保守リリースです。

ここでは、次の内容について説明します。

- [このリリースの新機能](#)
- [ハードウェアおよびソフトウェアの要件](#)

このリリースの新機能

このリリースでは、新しい機能は導入されていません。Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 で修正されたバグについては、[4 ページの「このリリースで修正されたバグ」](#)を参照してください。

ハードウェアおよびソフトウェアの要件

このリリースの Directory Proxy Server には、次のハードウェアおよびソフトウェアが必要です。

表 2 Solaris SPARC® のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
CPU	Java Enterprise System に必要なパッチを適用した Solaris 8 SPARC® Platform Edition
	Java Enterprise System に必要なパッチを適用した Solaris 9 SPARC Platform Edition
	Java Enterprise System に必要なパッチを適用した Solaris 10 SPARC Platform Edition

表 2 Solaris SPARC® のハードウェアおよびソフトウェアの要件 (続き)

コンポーネント	プラットフォームの要件
RAM	256M バイト
空きディスク領域	最小インストール用として約 300M バイトの空きディスク領域
パッチまたはサービスパック	http://sunsolve.sun.com を参照
Java	Java Runtime Environment 1.5

表 3 Solaris x86 のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
CPU	Solaris 9 x86 Platform Edition Solaris 10 x86 Platform Edition
RAM	256M バイト
空きディスク領域	最小インストール用として約 300M バイトの空きディスク領域
パッチまたはサービスパック	http://sunsolve.sun.com を参照
Java	Java Runtime Environment 1.5

表 4 Linux のハードウェアおよびソフトウェアの要件

コンポーネント	プラットフォームの要件
オペレーティングシステム	RedHat Advanced Server 2.1 Update 2 または RedHat Advanced Server 3.0 Update 3
パッチまたはサービスパック	http://sunsolve.sun.com を参照
Java	Java Runtime Environment 1.5
互換性ライブラリ	次の互換性ライブラリ <ul style="list-style-type: none"> • compat-gcc-7.3-2.96.128.i386.rpm • compat-gcc-c++-7.3-2.96.128.i386.rpm • compat-libstdc++-7.3-2.96.128.i386.rpm
	64 ビット Linux を実行している場合は、32 ビット Linux 用のシステムライブラリをインストールする必要があります。

このリリースで修正されたバグ

以下の表に、Directory Proxy Server 5.2 2004Q2 以降、Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 で修正されたバグを示します。Directory Proxy Server 5.2 2004Q2 のリリースノートについては、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/817-7021?l=ja> を参照してください。

表 5 Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 で修正されたバグ

バグ番号	バグの概要
4940286	Directory Proxy Server のコンソールのフランス語版のタイトルに間違った文字が表示される
5041832	新しいインスタンスに対してコンソールをはじめて起動するとエラーメッセージが表示される
5047201	Directory Proxy Server のヘルプより先に Administration Server のヘルプにアクセスすると、日本語版のオンラインヘルプで文字化けが発生する
5065752	高性能の Microsoft Windows プラットフォームでは、バインドおよびバインド解除の負荷検査が失敗する
5091854	ldapfwd 5.2.09 でリフェラルがハングアップする
5091862	IP 接続数の制限が適用されない
5105442	参照サーバーが停止している場合、持続検索を行ってもエラーコードが返されない

重要な情報

この節には、製品の主要マニュアルには含まれていない最新の情報が含まれています。ここでは、次の内容について説明します。

- [インストール上の注意](#)
- [マニュアルに関する注意事項](#)

インストール上の注意

ここでは、Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 のインストール、またはこのバージョンへの移行に関する注意事項について説明します。

- どのバージョンの Directory Proxy Server も使用していない場合は、Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 をインストールします。詳しくは、『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。
- Directory Access Router バージョン 5.0 または 5.0 SP1 を使用している場合は、『Sun Java Enterprise System 2005Q1 アップグレードと移行』の「Java Enterprise System 以前のバージョンからのコンポーネントのアップグレード」で推奨されている手順に従って、Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 に更新します。
- Directory Proxy Server 5.2 または 5.2 2004Q2 を使用している場合は、Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 ディストリビューションに同梱されている README ファイルに記載の情報をを使用して、Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 に更新します。表 6～表 10 に示されているパッチを使用します。

パッチの要件

次の表に、Directory Proxy Server 5.2 2004Q2 を Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 に更新するときに必要なパッチを示します。これらのパッチは、<http://sunsolve.sun.com> で入手できます。

警告 製品の依存関係を維持するために、次の表に記載されている順序でパッチをインストールする必要があります。

表 6 Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 の Solaris 8 (SPARC) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
116103-06	SunOS 5.8: International Components for Unicode Patch
117722-10	SunOS 5.8: NSPR 4.5.1 / NSS 3.9.5 / JSS 4.0
115328-01	SunOS 5.8: Simple Authentication and Security Layer (2.01)
115610-18	SunOS 5.9_sparc: Administration Server 5.2 patch
116837-02	LDAP CSDK - SUNWldk
117017-06	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ
116373-14	Directory Proxy Server 5.2 Patch

表 7 Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 の Solaris 9 (SPARC) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
114677-08	SunOS 5.9: International Components for Unicode Patch
117724-10	SunOS 5.9: NSPR 4.5.1 / NSS 3.9.5 / JSS 4.0
115342-01	SunOS 5.9: Simple Authentication and Security Layer (2.01)
115610-18	SunOS 5.9_sparc: Administration Server 5.2 patch
116837-02	LDAP CSDK - SUNWldk
117017-06	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ
116373-14	Directory Proxy Server 5.2 Patch

表 8 Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 の Solaris 9 (x86) 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
114678-08	SunOS 5.9_x86: International Components for Unicode Patch
117725-10	SunOS 5.8: NSPR 4.5.1 / NSS 3.9.5 / JSS 4.0
115611-18	SunOS 5.9_x86: Administration Server 5.2 patch
116838-02	LDAP CSDK - SUNWldk
117017-06	Solaris ローカライズ版パッケージ用パッチ

Linux システムでは、整合パッチには、<http://sunsolve.sun.com> から入手できる Directory Proxy Server のパッチおよび共有コンポーネントパッチが含まれており、配布 CD で提供されています。RPM の場所の検索およびインストールについては、『Sun Java Enterprise System 2005Q1 アップグレードと移行』の「Linux 共有コンポーネント RPM の適用」を参照してください。

表 9 Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 の Linux 用の整合パッチ

パッチ番号	パッチの説明
118096-04	sun-directory-proxy-server-5.2-9.i386.rpm sun-directory-proxy-server-man-5.2-3.i386.rpm

表 9 Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 の Linux 用の整合パッチ (続き)

パッチ番号	パッチの説明
	sun-icu-2.1-6.i386.rpm
	sun-sasl-2.02-2.i386.rpm
	sun-nspr-4.5.1-2.i386.rpm
	sun-nss-3.9.5-1.i386.rpm
	sun-ldapcsdk-5.12-3.i386.rpm
	sun-jss-4.0-5.i386.rpm
	sun-ljdk-4.17-3.i386.rpm
	sun-admin-server-5.2-13.i386.rpm
	sun-server-console-5.2-13.i386.rpm

Sun Java Enterprise System についての詳細は、
<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.html> を参照してください。

SSL 用証明書のための Directory Proxy Server の設定

SSL を利用した通信を行なうための Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 の設定方法については、『Directory Proxy Server 管理ガイド』を参照してください。

インストールのログファイルの検索

インストール中に生成されるログファイルについては、以下の表を参照してください。

表 10 インストールのログファイルが保存される場所

プラットフォーム	ログ (管理者 /root)	ログ (管理者 /root)
Solaris	/var/sadm/install/logs	/var/tmp
Solaris x86	/var/sadm/install/logs	/var/tmp
Linux	/var/tmp	/var/tmp

マニュアルに関する注意事項

- Directory Proxy Server のマニュアルとコンソールには、製品のバージョン番号が 5.2 と表記されている部分があります。Directory Proxy Server 5 2005Q1 は、Directory Proxy Server 5.2 の保守リリースです。
- ローカライズされたマニュアルは、利用可能になった時点で <http://docs.sun.com/> に掲載されます。

既知の問題および制限

ここでは、Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 に関する既知の問題と制限について説明します。

Directory Proxy Server の起動後に、自動的にネットワーク上で待機しない (#4818122)

Directory Proxy Server は、コマンド行から起動した場合、自動的にネットワーク上で待機しません。SSL モードが有効な場合、SSL を起動するためにトークンおよびパスワードを入力する必要があります。トークン要求に成功すると、Directory Proxy Server はネットワークで待機します。

回避策

なし

以前使用した名前でオブジェクトの名前を変更できない (#4863003)

オブジェクトの名前は、以前に使用した名前に変更することはできません。たとえば、次のようにオブジェクトの名前を指定して変更することはできません。

- myname-1 という名前でオブジェクトを作成し、これを保存する
- このオブジェクトの名前を myname-2 に変更し、この名前で保存する
- このオブジェクトの名前を myname-1 に戻す

この制限は、設定名を含め、名前が付けられるオブジェクトのプロパティのすべてに適用されます。

回避策

問題を回避するには、オブジェクトを新しい名前に変更します。

問題を解決するには、コンソールを終了し、再起動します。

Directory Proxy Server のコンソールでログプロパティのパネルを使用すると、設定が無効になることがある (#4864081 および #4942337)

Directory Proxy Server のコンソールのログプロパティのパネルを使用してログプロパティを変更すると、設定ディレクトリサーバーの設定が無効になる場合があります。この問題は、コンソールによって ids-proxy-con-include-logproperty エントリが設定内に生成されないために発生します。

回避策

次の手順を実行して、新しい設定を手動で生成します。

1. dpsconfig2ldif コマンドを使用して、設定ディレクトリサーバーの設定をエクスポートします。
2. LDIF ファイルで、ids-proxy-con-include-logproperty を含む行をコメントアウトします。

たとえば、エントリ "dn: ids-proxy-con-config-name=myhost, ou=system, ou=dar-config, o=NetscapeRoot" 内にある次の行をコメントアウトします。

```
#ids-proxy-con-include-logproperty
```


3. 以前のシステム設定を削除します。たとえば、次のようにします。

```
ldapdelete -D "cn=Directory Manager" -w password -h dshost -p 389  
"ids-proxy-con-config-name=myhost,ou=system, ou=dar-config, o=NetscapeRoot"
```

myhost は Directory Proxy Server ホストです。

4. dpsldif2config コマンドを使用して、設定ディレクトリサーバーに設定をインポートします。たとえば、次のようにします。

```
./dpsldif2config -C dps-myhost -h dshost -p 389 -D "cn=Directory Manager" -w  
password -v ./conf.ldif
```

5. 再度、Directory Proxy Server のコンソールでログプロパティのパネルを使用してログプロパティを変更します。

複数の Directory Proxy Server インスタンスが登録されている場合、オンラインヘルプでエラーが発生することがある (#4869580)

オンラインヘルプを表示するために、Directory Proxy Server のコンソールは設定ディレクトリに登録されている Directory Proxy Server インスタンスにアクセスします。設定ディレクトリに複数の Directory Proxy Server インスタンスが登録されている場合、使用される Directory Proxy Server インスタンスを指定することはできません。

オンラインヘルプの要求に応答する Directory Proxy Server インスタンスが使用されない場合、その要求は失敗します。Directory Proxy Server のコンソールは、戻り値および返される例外がないことを認識しません。

回避策

なし

コンソールで設定の名前を変更すると、設定の重複が発生する (#4923242)

Directory Proxy Server のコンソールを使用して Directory Proxy Server の設定の名前を変更すると、重複する設定名が作成されます。

回避策

設定のクローンを作成するには、新しい設定を作成し、元の設定に含まれるすべての値を新しい設定にコピーします。

各リフェラルに対してバインドまたはバインド解除が実行される (#4943985)

Directory Proxy Server は、バックエンド LDAP サーバーへの既存の接続を再利用する代わりに、各リフェラルに対してバインドまたはバインド解除を実行します。バックエンドサーバーが広域ネットワーク上に配置されている場合は、この問題によってパフォーマンスが低下します。

回避策

なし

バインド要求のリフェラルに従うことができない (#4951403)

Directory Proxy Server が他のサーバーに対するバインド要求を実行する場合、DN が返されます。ただし、Directory Proxy Server は、返された DN をサーバーへの接続に使用しません。代わりに、元の DN を使用します。このため、バインド要求は動作しません。

回避策

この機能は、バインド要求でのみ制限を受けます。この機能は、検索要求、変更要求、およびその他の要求では制限を受けません。

SSL が有効な場合に、コンソールからのリモートインスタンスの起動に失敗する (#4961059)

Directory Proxy Server のリモートインスタンスで SSL が有効な場合、コンソールを使用してインスタンスを起動または再起動することはできません。PIN ファイルが存在しないことを示すメッセージがコンソールに表示されます。

回避策

サーバー側と同じパスを使用して、コンソール側に PIN ファイルをインストールします。

SSL を通じて大きいエントリを取得すると、エントリが切り捨てられる (#4993108)

SSL を通じて大きいエントリを取得すると、取得結果が切り捨てられます。

Directory Proxy Server より先に Administration Server をバックアウトすると、バックアウトに失敗する (#5015762)

Directory Proxy Server より先に Administration Server をバックアウトすると、バックアウトに失敗します。

回避策

Directory Proxy Server をバックアウトしてから、Administration Server をバックアウトします。Directory Proxy Server の更新およびバックアウトの詳細については、『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

サーバーの root ディレクトリのユーティリティスクリプトのみを使用する必要がある (#5033742)

dpsconfig2ldif、dpsldif2config、および migratefromidar50 の各ユーティリティスクリプトは、サーバーの root ディレクトリ以外のディレクトリに複数のバージョンが存在することがあります。ただし、このようなバージョンのユーティリティスクリプトは、不適切な場合があります。

回避策

このディレクトリのユーティリティスクリプト、つまり <serverroot>/bin/dps_utilities のみを使用します。

IDAR 5.0 または 5.0 SP1 から Directory Proxy Server 5 2004Q2 以降のバージョンへの移行に失敗する (#5037424)

Directory Access Router 5.0 または 5.0 SP1 から Directory Proxy Server 5 2004Q2 以降のバージョンに移行するときに、migratefromidar50 スクリプトの実行に失敗します。この障害は、Directory Proxy Server 5 2004Q2 以降のバージョンのインスタンスに対するパスワードが tailor.txt ファイル内で暗号化されているために発生します。

回避策

1) tailor.txt ファイルで、Directory Proxy Server 5 2004Q2 以降のバージョンのインスタンスの暗号化されたパスワードを暗号化されていないパスワードに置換します。

2) 移行スクリプトを実行します。

Directory Proxy Server のコンソールを起動できない (#5041840)

インストール後に、設定ディレクトリサーバーよりも先に Administration Server を起動すると、Directory Proxy Server が Administration Server にアクセスできません。この場合、Directory Proxy Server のコンソールは正常に起動できません。

回避策

Administration Server を起動する前に設定ディレクトリサーバーを起動します。

新しいインスタンスの作成時にコンソールがブロックされる (#5042362)

Directory Proxy Server の新しいインスタンスを作成するときに、コンソールがブロックされ、「このビューにデータを読み込む際にエラーが発生しました」というエラーメッセージが表示されます。

回避策

新しいインスタンスを作成するときに、コンソールを終了するか、コンソールを再起動します。

再配布可能なファイル

Sun Java System Directory Proxy Server 5.2 2005Q1 には、ユーザーによる再配布が許可されているファイルは含まれていません。

問題の報告とフィードバックの方法

Sun Java System Directory Proxy Server で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun カスタマサポートにご連絡ください。

- Sun Software Support Services
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
このサイトには、Online Support Center、ProductTracker へのリンクと、保守プログラムやサポート連絡先の電話番号へのリンクがあります。
- SunSolve サポートの Web サイト
<http://sunsolve.sun.com>
このサイトには、パッチ、サポートマニュアル、セキュリティ情報、および Sun System Handbook が含まれています。
- 保守契約先に電話連絡してください。

最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題が発生した状況および操作への影響などの、問題の具体的説明
- マシン機種、OS バージョン、および製品のバージョン (問題に関係するパッチおよびその他のソフトウェアを含む)
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

Sun Java System Directory Proxy Server の話題が議論されている次のフォーラムを購読すると、有益な情報を得られます。

<http://swforum.sun.com>

コメントの送付先

Sun では、マニュアルの品質を向上するために、お客様からのコメントや提案をお待ちしております。Sun へのフィードバックを送信するには、次の Web サイトのフォームを使用してください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

該当するフィールドに、マニュアルの正式なタイトルと Part No. を入力してください。Part No. は、マニュアルのタイトルページまたはドキュメントの先頭に記載されています。通常、7桁または9桁の数字です。たとえば、この Directory Proxy Server 5.2 のリリースノートの Part No. は 819-1953 です。

その他の情報

次の Web サイトには、役立つ Sun Java System 情報があります。

- Sun Java System マニュアル
<http://docs.sun.com/prod/sunone>
- Sun Java System プロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System ソフトウェア製品およびサービス
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System ソフトウェアサポートサービス
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System サポートおよび Knowledge Base
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun サポートおよびトレーニングサービス
<http://training.sun.com>
- Sun Java System コンサルティングおよびプロフェッショナルサービス
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System 開発者向け情報
<http://sunonedev.sun.com>
- Sun 開発者サポートサービス
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System ソフトウェアトレーニング
<http://www.sun.com/software/training>
- Sun ソフトウェア一覧
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> の一覧に示される米国特許、および米国をはじめとする他の国々で取得された、または申請中の特許などが含まれています。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

その他の情報

本製品には、サードパーティが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいて開発されている場合があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun ロゴ、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用されている、米国および他の国々における同社の商標または登録商標です。